

1. 活動報告（事務局 記）

—7月29日（土）訪問者として、周南市子ども探険隊がビオトープへ来られました。生き物探しは、主に昆虫と水棲動物を観察されました。色々な生き物を捕まえて、名前を確認して元に戻しました。参加者は、子18名、スタッフ15名、つくる会の菅・前田・原谷会員でした。

—7月30日（日）猛暑の中、会員12名で、須賀河内川上流の安全確認（次回の川登りのため）、草刈り、田んぼの除草、草刈りされた草の焼却処分の作業を行いました。作業後に、ノンアルと焼肉で暑気払いを行いました。

—8月6日（日）天気も良く、親子自然観察隊は川登り組とビオトープ組で、水棲動物の観察を行いました。川登り組の子供たちは、ライフジャケットとヘルメットを着用し、所々深い場所もありましたが、安全に楽しく行っていました。観察に参加しない会員は、草刈り等の作業を行いました。参加者は、親26名、子33名、会員15名でした。

—8月20日（日）猛暑の中、会員15名で、駐車場の草刈り、草原ゾーンと観察路の草刈り、田んぼの害虫よけの液の散布、蓮田のエコアップ、サツマイモの植え付け場の草取り、刈った草の片付けの作業を行いました。

2. 今後の予定（事務局 記） ◎行 事

- 9月3日（日）維持活動（草刈り）
- 9月16日（土）親子自然観察隊（昆虫観察）
- 9月24日（日）維持活動（草刈り）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「ビオトープ探検・福川こどもクラブ」 (菅 哲郎 記)

晴れ 新南陽市より「福川こどもクラブ」の皆さんが二俣瀬ビオトープの探検に来られました。会員は小学生が中心で、卒業された中学生の生徒さんやOBの皆さんは子供たちのリーダーとして参加されました。

18名の子供が参加、そのほかに山口大学のボランティアサークル「トム・ソーヤ」の皆さんとスタッフ15名が集まり、ビオトープ内の草むらやため池、湿地、須賀河内川の一部を探検し、昆虫類や水生生物などを採集し名前を調べました。

今の時期はやはりトンボが多く、次いでタイコウチ、ミズカマキリ、コオイムシといった水棲昆虫が多く採集されていました。カエルもけっこういたようです。

ビオトープからは原谷さん、前田さん、それに管の3名がお手伝いさせていただきました。また、前田さんよりの報告で、シーズン中には3日に一度池に通い外来種である「ウシガエル」の卵を駆除するというお話に、みんな驚いていました。

日陰の気温33℃と今日は快晴のお天気で、気温が上がり、熱中症などが心配されました。私たち大人のほうが下手ってしまい、東屋の中で休むほうが多かったのですが、子供たちと大学生のスタッフは元気にフィールドを飛び回っていました。

15時には終了宣言しましたが、子供たちの中にはまだ遊び足りない子もいたようで、驚きました。しかし、大した事故もなく無事イベントが終わり、ほっとした気持ちです。



こどもクラブと集合写真



5. 親子自然観察隊 「水棲動物観察」

★川登り組 (関根 リーダー 記)

梅雨明け以降暑い日が続く中、お待ちかねの川の探検です。子供24人、大人15人、会員3人の大部隊で東家上流から川に入ります。冷たい水が気持ち良い。ただ、近年魚種数が減っている上に、今年は大雨が多く、流されてしまった魚も多いのではないかと心配です。水戸付近の岩盤河床で例年よく獲れるヨシノボリも、今年は超小型が少しだけ。あとは小さなカワムツばかりです。最初の落差下の淵で投網を打つと、大きめの底魚が獲れました。ドンコと説明したのですが、特徴的な三角模様がなく体型的にもややスマートに思え、頭に引っかかっていたのですが、帰ってから体の斑点模様などの記憶を頼りに調べなおしました。多分チチブだったのだと思います。写真ぐらい撮っておくべきでした。冷たい水を歓声をあげながら乗り越えた堰の上からはスジエビ、ヌマエビなども獲れ始め、大きなドンコも目撃できました。父滝の淵では投網で婚姻色が出た大きなカワムツが獲れました。父滝は左岸の水際を行くと楽に登れますが、今年ではできるだけ中央から登りました。流量もそこそこあり、水しぶきを全身に浴びながらの滝登りは親子ともども楽しんでいた

だけた様子。続く母滝を越え、トロ部分の右岸の草の下でもカワムツやヌマエビ、スジエビがたくさん獲れました。溪流部に入ると日射が少なく藻類が成長しにくいからか、急に魚もカワニナも少なくなります。ところどころの淵で泳ぎを楽しみながら、三々五々ゴールしてゆきます。全員ゴールしたところで記念写真を撮り、市道を通ってビオトープに戻りました。ビオトープではワナで魚をとってくれていましたが、環境省レッドリストで絶滅危惧IB類のオヤニラミ（超小型！）が獲れていました。山口ではよく見る魚ではありませんが、やはり1匹でも居てくれると嬉しいです。結局、参加者みんな頑張ってくれたこともありたくさんの魚が撮れましたが、そのほとんどはカワムツでした。カワムツ以外の魚類では、ヨシノボリ、ドンコ、チチブ、オヤニラミ、甲殻類ではスジエビ、ヌマエビ、サワガニ、貝類ではカワニナ、その他に各種のヤゴが獲れています。かつては多く見られたムギツクやカマツカ、シマドジョウなどがまったく獲れていないのがやはり寂しいですね。原因不明の魚種の減少はいろいろな河川で観察されていますが、上流に人家がない須賀河内川では気温と流量の変化が影響していると考えるのが自然でしょう。あと、厚東川との接続部の立派な水門が洪水から人間を守ってくれている一方で、増水時に厚東川に洗い落とされてしまった魚が須賀河内川に戻ってくるのを妨害している可能性もあるのではないかと思います。この観察会が魚の減少に寄与しているとは思いたくありませんが、ここまで魚種が減ってしまうと、せめて捕まえた魚は死なないように大事に扱って、観察したあとは一匹残らず川に戻してやりたいものです。



ライフジャケットとヘルメットを着用



堰の上の川で観察



母滝を登って行きます



ゴールで全員集合

★ビオトープ組（菅 哲郎 記）

暑さ真っ盛り、気温は32℃ほどを記録し、長時間日向へは出られません、それでも隊員たちは元気いっぱい、引率する大人のほうが下手ってしまいました。

今回も川登に参加できず、ビオトープ内で昆虫採集する子供が数名いましたので、管と前田会員が対応しました。主に水田横の“ヨケジ”にいる水棲昆虫を採集したり、水田畦や通路沿いにいるトンボ類を採集しましたし、川に入る親子もいました。

今年も隊員たちが川の探検に行っている間に、管と前田会員が魚類捕獲の網をセットし、子供たちが捕まえないような大型の魚を採集しました。数は少なかったのですが、10センチ以上のウグイを数匹とらえることができましたし、居残りの親子が“オヤニラミ”の幼魚（1, 5センチ）1匹を網で掬い取っていました。これが今日の一番の収穫でしょうか、オヤニラミがいたことだけでもうれしい誤算です。

水田畦での掬い取りは大変暑かったのですが、子供たちは思った以上に元気で、楽しんでくれたようです。引率する親のほうが暑さに参るほどでした。

最後に関根委員より採った魚の種類を教えてください、スイカをいただき楽しいイベントを終了しました。この暑さの中、親も子も気分を悪くされる人もなく、無事終了しましたので、ありがたく思います。

私たちが川登を行っているさなか、暑い中にもかかわらず、芋畑の周辺の草刈りを行ってくれた会員さんがおり、ご苦労様でした。気になっていたのですが、すっかりきれいになりました、ありがとうございました。10月の“芋ほり”が楽しみです。

余談ですが、昨日岩国市周東町のビオトープ（2018年5月オープン）に行ってきましたが、見事湿地がなくなって草原になっていました。



水田畦で水棲昆虫やメダカをすくいました



雑草を刈る会員

親子自然観察隊の感想

★川崎（母）

暑い中はお疲れ様でした。水の冷たさ、日陰の涼しさを感じながら、皆んなで登り始めて、着いた時の達成感子供ながら感じたと思います。生き物を捕まえるだけではなく、観察もし、種類から生息場所を探すというのも、子供はわくわくで、真剣に話を聞いていました。終わった後のスイカも、あの場所でみんなで味わい、いつもと違った味で美味しかったみたいで、2つ食べてました。親も子もとてもいい経験になりました。また、参加前、参加中に草を刈ったり、場所の整備をしてくださり、感謝しています。最後に帰りの途中、係の方が子供に手をふってくれました。子供は大きな声で ありがとうございます！

と言っていました。自分から言えたことに、親は感動してしまいました。これもみなさんのお陰です。成長させてもらいました。ありがとうございます。

★高畑 宏太

生き物の種類は、あまり居なかったけど、川に入って魚を捕まえられたので、とても楽しく観察出来ました。

★嶋本 (母)

先日はお世話になりました。沢登りは親子共々初めての経験で、楽しませて頂きました。また川に棲息する生き物について学ぶことができました。事前準備等、ありがとうございました。

★湯浅 (母)

お世話になります。子どもは「魚が取れて嬉しかった！」とのこと。親子で参加しましたが、大人にとってもアドベンチャーでした！ワクワクドキドキ楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

★新谷 (母)

親子でドキドキしながら沢を登れて楽しかったです貴重な体験ができました

★新谷知生

いろんな生物が見れて楽しかったです。

★新谷和矢

深い所でプカプカ浮いたのが楽しかったです

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(90) ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* コマユバチ科

日本最大種のカミキリムシ「シロスジカミキリ」の幼虫に寄生する小型のハチです。体長は15～24ミリほどで、メスには15センチ前後の長い産卵管を持っているのが特徴で、オスにはお尻のハリはありません。北海道を除く日本全土に生息します。シロスジカミキリはクスギや栗の木に多く、ウマノオバチも初夏には盛んに活動を始めます。

メスは長い産卵管を持っていますので木の周りで簡単に見つかりますが、オスはなかなか見つかりません、山口県でも1例だけです。筆者も2年前からオスを探していますが、いまだ発見できません。



長い産卵管を持つウマノオバチ♀



カミキリムシの幼虫を探す♀



カミキリムシの幼虫に産卵管を差し込み産卵しているメス

7. 会よりの連絡事項

- 1) 今年度も後7か月となり、つくる会の解散に向けて、残務処理を考えなくてはなりません。駐車場の仮設トイレ、須賀河内川の仮設橋、不要となりそうな工具などどうするかを考えて、これからの維持管理の作業だけでなく、その方針を決める必要があります。そこで、10月22日に臨時総会を開催して、方向付けを決めたいと思います。（事務局の原谷より）

8. 編集後記 （若林 正治 記）

残暑厳しいお盆休み、息子達が帰省し大変賑やかでお酒も美味しく楽しく過ごしました。そんな中、来年度の里山ビオトープ二俣瀬について協議があり、つくる会が解散した後も次の団体に管理して頂けるようです。景観がこのまま残る様で少し安心しています。これまでの活動はホームページにあります。会報も1号から最新号まであります。当時を思い出すのも良いかと。